

幸せは遙か彼方に



することは貿易決済をドルから切り替えるのと同じ事、トランプはフセインのごとく捉えられ、殺害されることでしょうか。

アメリカの国益のための「友だち作戦」で、原子力空母の威力を内外に誇示したものです。

時代の先をよむ

よく見ていると優れた経営者は、常に時代の先を読み準備をされているものです。

アンテナを絶えず張り巡らし顧客の求めているものをキャッチし、「商品化」ができるところが生き延びる。当然、これは前例に満足することなく変革（進化）を繰り返して行かねばならない。現代は、明らかに右肩上がりの時代ではない、したがって決断し行動を起こすのは、7割の確率まで情報の確率を高めなければならぬ。そして、リアルに映像として見えるまで先を描いているものです。とにかくのろくても、少しでも前進する事が最も大事です。

兎と亀さんの話ではないが、方向性が正しければいつかは到達できる。しかし、どんなに考え抜いても結論が出ない時、その時は「好き嫌い」で決めると将棋の羽生善治氏、「はやぶさ」プロジェクトの川口淳一郎氏は「どつちでもよい」と語っている。

現代は、室町幕府権力が崩壊し京都（首都）が焼け野原と化した、戦国時代に至る「応仁の乱」である。

先月、国税庁が21年度の「法人企業の実態」を発表しています。

これを見ますと、会社数は10年前の3%増の261万社に増えていますが、欠損法人の割合が、72.8%です。10年前は69.9%で、特に5年前から増加傾向です。すなわち現在、我が国の7割を超える会社は赤字です。黒

字が右肩下がりで3割を切り、2割台ということです。

景気回復して活力の証、直接税の増収を期待しない政策と方針の認識です。政府は、もう景気回復の意志もメドも能力がまったくありません。これは我が国の「ピークアウト」の証明であります。

当然財務省の悲願は増収が確実な消費税の増税による財源

確保です。増税は、さらに国内消費を冷やませ、デフレは止まりません。一般大衆が、税の津波に襲われるのと同じことです。

米軍費と米国債の購入です。アメリカの国債を売却すれば財源は十分です。実質アメリカのための消費税の増税は誠に不適切です。これに反対

誹謗中傷や、噂のベクトルはいつでも下から上に向かつて発せられるものである。

人類の歴史で紀元前から変わらない、理不尽な中傷や噂は世界共通の特性であって、誹謗中傷はまもなく成功する前兆である。

また噂も挑戦者に対して捏造されるもので、抜きんでようとする人を自分たちと同じ位置まで引きずり下ろすことなのである。

私の二十代から今も、二者択一の選択基準は、人が望まない方、あえて苦勞する側に飛び込んだ。

世間一般で得られるものは無かつ

理不尽な噂を立てられたらあなたはまもなく成功する

しかし、次の成功者になる準備をしている人にとっては、成功に心から拍手

たが、遙かに凌駕する体験を得られた。すなわち判断基準・人間軸である。

友だちの幸せに拍手できる人が、

ができる。その人は、まもなく成功する存在なのです。



(有)西川経営オフィスサービス
中村会計
事務所便り
 2011年6月9日 (木) NO 200
 地域から明るい未来を作ろう